

平成29年度「学校評価」期末評価に係る報告

磐城高等学校長 阿部 正春

1 評価と改善

この学校評価に係るアンケート調査の目的は、本校の教育方針や学校経営・運営ビジョンに掲げる具体的な教育活動などについて、その達成状況を客観的に評価することにより、本校教育の活性化と質の向上に役立てることです。

このことを踏まえ、学校経営・運営ビジョンの何が、どのように達成されているのか、また、取り組むべき課題は何か等について、一層明らかにするため、昨年度に引き続き、学校経営・運営ビジョンに掲げる教育活動と連動した項目内容を設定してアンケートを行いました。

今回の調査結果から示された課題について、その原因と具体的な解決策を探り、本校生が常に高い志を持ち、日々努力し難関に挑み、潜在する力を開拓・磨いていくとともに、知・徳・体のバランスの取れた力を身につけることができるよう、学校づくりに努めて参りたいと考えております。

2 評価者及び回答者

評価者	期末評価		
	対象数	回答数	割合（昨年度）
教職員	57	57	100%（100%）
職員以外	生徒	933	98.0%（99.1%）
	保護者	239	99.6%（96.6%）

* アンケート調査では、保護者は各クラス10名の抽出調査（全校生の約25%）、生徒・教職員は全員を対象としております。アンケート項目は、これまで同様、三者共通の11項目とそれぞれの評価者ごとの4項目に分けております。

3 評価基準

(1) アンケート調査の評価基準

評価	4	3	2	1	0
評価基準	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない

(2) アンケート調査のまとめ評価基準

評価	◎	○	空白
評価基準	65%以上	45%以上～65%未満	45%未満

* 評価基準(1)については、「普通」の評価をさけて肯定的か否定的かの判断がつくように評価基準を設定しました。(2)については、生徒・保護者・教職員の全体的傾向を把握して三者の認識等の違いを比較検討できるようにしました。評価は、(1)の4・3の合計を評価基準としています。

4 集計結果

「自ら学ぶ意欲の喚起」、「進路情報の提供」、「部活動の活性化」、「服装・挨拶」、「交通事故、特別指導の絶無」、「学校の情報発信」については、昨年度に引き続き、保護者、生徒、教員いずれからも高い評価でした。このような評価が継続していくよう、今後とも取り組んで参ります。

これに対して、「講義室の土日開放日の活用」は保護者、生徒、「読書時間の確保」については、保護者、生徒、教員いずれからも改善・工夫すべきとの評価でした。「講義室土日開放日の活用」の在り方については、生徒への周知の仕方、利用方法等の検討が必要であると思われます。また、今年度、学校経営・運営ビジョンにおいて「学習指導と連携した読書指導の推進」を掲げておりますので、学習時間の確保はもとより「読書時間の確保」についても指導の充実を図って参りたいと考えております。

「学習と部活動とのバランス」に関しては、生徒、教員ともに半数以上が低い評価でした。9割強の生徒が部活動に加入し、部活動が活発である本校においては、学習と部活動の両立は常に大きな課題です。「生活の中心が学習」が71%（中間評価では63%、昨年度63%）、「生活の中心が部活動」が26%（中間評価では32%、昨年度30%）となっており、学習に対する意識の変化が見られます。学校経営・運営ビジョンにおいて「主体的学習習慣の確立」、「生徒の学習時間の確保と保障」を掲げ、午後7時の活動終了、午後7時30分下校を指導しておりますので、ご家庭でも、授業中心の家庭学習が最も重要であるとのご理解をお願いいたします。

「欠席・遅刻の予防指導」、「清潔な環境作り」については、生徒と保護者・教員との評価に差が生じています。学校としても、生徒の生活面については、ご家庭との連絡や意思疎通を一層密に図って参りますので、ご理解・ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。ご心配な点がございましたら遠慮なく学校に相談してください。

多くの保護者の皆様からは、「常により高いレベルを目指している」「文武両道に励んでいる」との回答をいただいております。しかし、本校では、今回の学校評価を通して教育活動の状況を客観的に把握するとともに、生徒がさらに充実した高校生活を送れるための指導の改善・充実、地域に開かれた学校づくりに努めて参りますので、今後ともご協力をお願いいたします。